

協働のまちづくり市民会議会議録

会議名称	第4回山口市協働のまちづくり市民会議
開催日時	平成19年10月19日(金曜日)午後6時30分～午後9時20分
開催場所	山口総合支所3階 第10・11会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	辻正二委員、坂本俊彦委員、渡辺洋子委員、清水春治委員、井出崎小百合委員、河村律子委員、久保田美代委員、藏本信江委員、曾田元子委員、中村保男委員、中山美穂子委員、西村美紀委員、原田章子委員、原田雅代委員、平井多美子委員、福田嘉夫委員、益田徳子委員、山根伊都子委員、山本貴広委員、山本豊委員、若崎啓一委員(21人)
欠席者	(3人)加藤結花委員、國吉正和委員、豊川智恵委員
事務局	安光協働推進課長、山田主幹、杉田主任主事、豊田主任主事(4人)
議題等	<ol style="list-style-type: none"> 1 前回会議の確認について 2 市民委員「市民会議への思い」発表 3 グループ討議 <ul style="list-style-type: none"> アイデアカードの発表 アイデアカードに対しての意見交換 アイデアカード作成 グループ発表・質疑応答 4 まとめ 5 次回開催について 6 その他
内容	<p><事務局> 最初のあいさつ 本日の配布資料の確認 議事録・署名委員の指名</p> <p>【1 市民委員「市民会議への思い」発表】</p> <p><益田 徳子 委員> みなさんこんばんは。小郡からいつも参加しております益田 徳子と申します。 わたくしは動かなければ何事も出会えないということを大事にしている、現在は小郡の女性団体連絡協議会の会長をさせていただいております。できるだけこういう会に参加して、わたくしの思い、みなさんの思いを伝えることができると常日頃考えて、こういう場に来させていただいております。 こういう場に来ているんな方との出会い、それがまた地域に広がり、山口でも「こん</p>

にちは」って挨拶のできる関係がまちづくりには一番必要なことじゃないかなと思って
おります。また今からも勉強会もしますけれど、やはりフィールドワークも大切なこと
なので、学んだことは必ず実践するというスタンスでこれからもやって行きたいと思っ
ているので、みなさんも何かわたくしに助言なり与えていただければとても嬉しく思っ
ております。これからも長い期間色々お世話になると思いますのでよろしくお願いま
す。

<山本 豊 委員>

みなさんこんばんは。小郡から来ております山本 豊でございます。わたくしがこの
委員に公募した理由が三つあるんですよ。ひとつは山口市が合併をして大きい地域にな
ったので何かのルールがないと一体化した行政が難しいんじゃないかと考えたこと。そ
れと自分の住んでいる地域が疲弊しているのをこれをなんとかしたい。それともうひと
つはわたくしも小郡のまちづくり審議会の委員、山口市総合計画の策定の委員をやった
関係で、ぜひ総合計画がまちづくり基本条例に反映されなきゃならんんじゃないかとい
うことから公募しました。

ひとつづくり、担い手づくり、地域づくり、まちづくりこういったことをわたくし常に
考えております。そのためには意識の改革が必要であり、協働の精神の養成をしなければ
ならないと思っています。

それから魅力ある山口の創造を目指して、産業経済に活力のあるまち、元気のあるま
ちをつくるためにはなんとかひとつ条例で本気に盛り上げていくことができないだろう
かというのがございます。そして山口市の人口を増やさんやいけんということで定住人
口を増やすこと、それから交流人口を増やすことを考えています。以上で終わりますが、
どうぞひとつ皆さんのご指導をよろしくお願います。

【2 前回会議の確認について】

<辻会長>

前回はまちづくりの課題をみなさんに出してもらった。3班に分けて実施したわけだ
が、煮詰まった形で問題意識が出てきたと思う。市民も努力し、行政にも努力してほし
いと感じた。今日は第4回ということで、今日も多少長くなるかもしれない。よろしく
お願いしたい。今日のグループ討議について、副会長から説明します。

【3 グループ討議】

<渡辺副会長>

今日のプログラムを説明する。前回、みなさんから出た課題は、行政のほうからも出
ていたが、197項目もあった。これを解決するために、日ごろ持っているアイデアを
今日はアイデアカードにしてきて頂いた。

今日の流れはアイデアカードをまずグループの中で共有し、ひとつ選んで、アイデアシートを仕上げてもらおう。アイデアシートができた時点で壁に貼り、発表してもらおう。発表は質疑応答を含めて10分。そこでアイデアシート実現の可能性はあるか、実行の必要性があるか評価していく。これがおおまかな流れです。

<委員 A >

カードを一つにしぼれない。

<渡辺副会長 >

しぼれない時にはまた相談して欲しい。まずグループの中で発表者と書記、タイムキーパーを決める。

それぞれのアイデアカードを3分で班の中で発表する。アイデアカードを並べて意見交換し、それをひとつに選ぶ。その時間が20分間。選んだアイデアカードの目的、アイデア名称、内容についてはアイデアシートに転記する。

自分たちが解決したい課題の原因をしっかりと掘り下げて欲しい。それを実践していく為の各主体の役割、この記入例では住民、行政、自治会と書いてあるが、市民団体が入ることがあるかもしれない。その辺をしっかりと絞って欲しい。あとで貼りだして発表し、それから評価に移るので評価のところはそのまま空欄にする。

自分たちの班のカラーを大事にし、自分たちのアイデアをまとめて欲しい。会長、副会長はフリーになっているので、分からないところがあれば声をかけて欲しい。流れはよいか。今まで発表したことない人が発表するようにして欲しい。では始めます。

《グループ討議》

<渡辺副会長 >

アイデアシートの記入で、テーマ設定でかなり悩んでいるようだが、今回の目的は動かし方、動き方、それを作り上げていくこと。テーマはあまり大きな問題ではなく、それを実際に動かしていくためにはどういう役割が必要かに気をつけて進めて欲しい。

(グループワーク中)

<渡辺副会長 >

発表に移らせてもらおう。1班から発表をお願いします。

<発表 1班 B委員 > [1班アイデアシートへ](#)

それでは発表する。テーマは「市民の意識向上」。意識の少ない市民が多く、団体やボランティアの輪が広がらない。まず目的は、まちづくり活動を知ってもらうこと。人の輪、活動の輪を広げ、活動の楽しさを伝える。事業名は「飛び込め!のり込め!まちづ

くり」とした。

これは人に集まってもらうための募集や呼びかけをするのではなく、たくさん人がいるところでのPRや一緒に体験してもらう方が効率的ではないかということ。

内容はまちづくりを進める上での協力体制の模索、たくさんの人を巻き込む、まちづくり体験を人の集まる場所へ持ち込むということがポイント。

課題の原因は、市民のまちづくりへの意識が低いので、情報をなげかけても伝わらないし、知ろうとする人が少ない。だから活動する人は限られ、多くの人知らない、広がらない、楽しめないということだと思う。

主体だが、まず活動している団体、学校、自治会、企業、それと行政。役割としては、活動団体は、自分たちのやっていることのPRをする。PRを持ち込んでやるということ。できるだけ楽しく、みんなにできることを体験できるように提供するという役割。

学校は、小中高大学で団体の活動を体験する場を設ける。活動団体を学校内に受け入れ、子供のうちからまちづくり活動やボランティア活動を体験できる機会をつくること。

自治会は、地域の集会を頻繁に開いて欲しい。そこで地域の人を集め、そこに活動団体やボランティアが出向いて話をしたり、実際に体験を一緒にしたりする。そして集会では、行政依存ではなく自治会主体でできることを話し合っ欲しいと思う。

企業はスポンサーになって欲しい。なにか楽しいことを提供してくれたらいいと思う。

行政には、各主体をつなぐ役目としてさらっと関わって欲しい。1班の発表を終わる。

< 渡辺副会長 >

この仕組みが本当に動くかどうか、実現していけるか、動いていけるか、足りない役割はないか等の意見を出して欲しい。

< 委員C >

よくわからなかったが、どこが中心になって動くのか。

< 1班 B委員 >

仲間を集めたいと思うまちづくりをしている団体が主体的にPRに出かけようとして欲しいと思う。

< 渡辺副会長 >

仲間を集めたいと思うまちづくりをしている団体が声をかけるということでしょうか。

< 1班 B委員 >

自分たちの活動をPRしたい等、学校とか自治会とかに投げかける。

< 1班 D委員 >

まちづくりチームがあって、各団体が自分たちだけでやっている活動があると思う。他の学校とか自治会とかにやってみないかと提案し、やってみようかなというのを陰で支えながら実施してもらおう。自分たちが日ごろやっている活動内容を伝えるPRにもなるし、活動を認めてもらえたという自信にもつながる。学校や自治会といった受け入れた側も楽しみの提供そういう活動を体験できたら、活動団体もうれしいし、学校や自治会もいい経験ができるのではないかと思っている。

< E 委員 >

飛び込んでいくという考え方はいいと思うが、どんなまちをつくるのか。

< 1 班 D 委員 >

自分が楽しくないと、人は楽しそうと思わない。

< E 委員 >

楽しいまちづくりか。

< 1 班 D 委員 >

そうです。楽しいと人が集まるし。楽しいがキーワードです。

< 渡辺副会長 >

どういったことが楽しい、どんなときが楽しいのでしょうか。

< 1 班 D 委員 >

楽しいことをやりたいと思うと主体的になる。受け身でやると楽しくない。自分でやりたいと思うと、自分で責任を持って主体的に動ける。難しいが楽しいがキーワード。

< 渡辺副会長 >

このグループは自主的に動いていく雰囲気づくりが楽しいということにつながると。

< 1 班 D 委員 >

目標があって、まちづくりに向けて苦しかったり、つらかったりするが、でも楽しいと次のまちづくりをすることにつながると思う。

< 渡辺副会長 >

このテーマはもっと深めていかないといけないと思う。何気なく使っている言葉でもみんな思いが違うことが分かった。次のグループの発表にいきたいと思う。

< 2 班 F 委員 >

[2 班アイデアシートへ](#)

2班のテーマは「安心・安全」。私たちが生きていくためにはまずは安心と安全な社会でないと困る。安心・安全に暮らすためには、自治会が活性化していないといけない。コミュニティの確立が必要。隣に誰が住んでいるかわからないようでは、私たちは困る。

そう考えた時に、課題もあるが、本当に生命に関わる問題、防災でまちづくり人づくりを考えて、掘り下げていくのがいいのではないかということになった。

災害が起こったときに、近所に住んでいる人たちがどう避難して、私たちはどうすればいいのか考えなくてはならない。でも地域にどんな人たちがいるのかわからないので、それをしっかりと把握する必要がある。把握したいが、そこにはハードルがある。

私たちは日ごろコミュニケーションがないので、本当にどんな人が住んでいるのか知らない。人とつながりがない。便利な世の中になっているので、家の中にいてもテレビで情報が入ってくるし、携帯電話をかければ情報が入ってくる。そういう便利な世の中になれば、多様な価値観があり、みんないろんな考えを持っているので、人と人とのつながりがない。その裏側には、便利な世の中っていうものがあるということ。

私たちは何か災害が起こったときにどういった川に氾濫が起こったりするとか、この交通網が途絶えた時に実際にどうなるかってことをよく知らない。私たちが防災でまちづくり人づくりをしていくうえで、どういった役割を果たしていけばいいのか。

まず専門知識をもったNPO、学識者、行政、自治会、住民の役割を考えた。専門知識を持ったNPOには、防災が起こったときのシミュレーションをしてもらいたいと思うので、そのやり方、ファシリテーターとして、実際どういう風なワークショップを開いたらいいのか考えてみていただきたいと思う。

学識者には実際に災害が起こったときに、このまちはここが危ないという具体的なアドバイスをもらいたい。

そして行政が一番情報を持っているので、何かが起こったときに情報を提供してもらい、情報が欲しいときに専門知識をもったNPO、学識者、自治会、住民をつなぐコーディネーターの役割をして欲しい。

私は何か災害が起きたときに備えて、ハザードマップや避難地図をもらったが、実際に自分がどこに逃げたらいいかってことを知らない。自治会での体制についてはE委員さんにお尋ねしたい。市民は自治会に参加すると同時に、安心・安全を掘り下げて考えてみて欲しい。そういう意識改革が必要だと思う。

自治会の住民に対する意識改革、私たち一人ひとりが意識改革をすることがとても重要だと思う。これらが全て上手くいけば、隣近所に住む人と人との、顔が見える関係作りができると思う。人と人をつながりをつくる、顔が見える関係づくりをするために、安心・安全をテーマに防災から考えた。みなさん補足をお願いする。

< 渡辺副会長 >

補足がありますか。主体は専門知識を持ったNPOでしょうか。

< 2班 G委員 >

主体は自治会、住民。

< 渡辺副会長 >

自治会が主体でしょうか。

< 2班 G委員 >

そうです。自治会そして住民が主体。でもそれを動かしていくために専門知識を持ったNPO、行政が必要。

< 渡辺副会長 >

では自治会は主体になってやれるのでしょうか。

< E委員 >

それは自治会としてやらなければならないこと。

< 2班 G委員 >

やれる。

< E委員 >

だが住んでいるところがどんな災害があるかということを知っていないと。

< 2班 G委員 >

その辺はぜひとも専門知識を持ったNPOに。

< E委員 >

だけど、そんなNPOがいるのか。

< 2班 G委員 >

います。

< H委員 >

質問です。防災ということになると、個人情報の問題がないがしろにできないと思う。その問題はどうやって解決するのか。

< 2班 G委員 >

班の議論の中で民生委員や自治会長は把握しているかもしれないという話になったが、公表してくれるかどうかはわからない。そういう意見が出た。だから調査隊でも作るかという話になった。調査隊をつかって一軒ずつ尋ねて、地図を作ろうと思った。

< E 委員 >

行政は個人情報をくれないが、安否確認は地域の住民しかできない。

< 2 班 G 委員 >

それは地域の住民も把握しないと。地域の住民ができなかったらどうなるのか。

< E 委員 >

行政は全くできない。

< 2 班 G 委員 >

地域の住民も知らなかったら。

< E 委員 >

だからそこが自治会の悩み。例えば風水害の時に大雨が降って、川が氾濫しそうな時に独居老人、寝たきり老人を誰が避難させるのか。その時にどういうルートでどこが安全でどこに連れて行くのかそういう日ごろから考えていないと。

< 辻会長 >

ちょっといいでしょうか。だからこそ条例が必要になる。自治会内の住民の氏名や住所は、山口市民の中ではここまでは、少なくとも班長等はきちんと管理するということが必要だ。そこまで解決して初めて市民社会ができる。だからルールが必要になる。実際にいうと私は個人情報保護法をやりすぎではないかと思う。

< E 委員 >

今は地域にいる人の情報、個人情報がもらえない。地域活動ができない。

< 辻会長 >

実際に個人情報保護法はカード情報の関係で出てきた法律。それが個人情報という名称になり、氏名から住所まで出さないことになってしまった。我々自身が電話勧誘なんかを怖がっているのは、結局私たちの社会自体の信頼がなくなっていく。みんなが、なぜあなたは私を知る必要があるのかということになれば、近隣関係なんてできない。ここがいわゆる条例の大事な部分で、山口市民はそこを条例でどこまでうたうかということ。

< E 委員 >

県の自治会連合会の研修会の時に、やはり安心・安全のまちづくりが自治会にとっては最大のテーマだった。これをやらなくてはいけないが、個人情報がもらえない。民生委員ももらえない。市によって、取り扱いがバラバラ。県に情報を公開するように、県

下同じ取り扱いでないと自治会活動はできないという大きなテーマで話し合いをした。

< 渡辺副会長 >

このアイデアが実践できれば、山口市は他より先に押し進めるかもしれない。

< E 委員 >

山口市も情報は全く出してない。

< 渡辺副会長 >

だから市民が主体的に動けるための条例が必要ということ。

< E 委員 >

そこを出してもらわないと地域活動をするのに困る。

< 渡辺副会長 >

皆さんも自治会に入っているが、E 委員さんが話したような現状を知らなかった。

< E 委員 >

いいテーマでやってもらった。

< 渡辺副会長 >

自治会の役割としては、情報発信というのもあるかもしれない。1 班の発表であった、集会の場を頻繁に持つというのがポイントかもしれません。

< E 委員 >

自治会で集会をしっかりと、自治会で住民の安心・安全についてはどういう問題点があり、それをどうやって解決していくか、誰がどう動くかというところをみなさんも自分の自治会に参加して提案して欲しい。

< 渡辺副会長 >

自治会の課題や現状はE 委員が把握しているので、また聞かせてもらいたい。次のグループ、発表をお願いします。

< 3 班 I 委員 > [3 班アイデアシートへ](#)

テーマは「市民の意識改革」。今は行政への依存度が高く、なんとかしてくれると思う受身の市民が多い。まずは個人から変えていこうと。一人ひとりの生活ニーズを改善できる事業を行ってはどうかということになった。

内容的には、一人ひとりが参加できる講座を持ち、体験・体感から味わう意識をつく

る。今は個人の生活の違いから、自分本位の時間ばかりを持って他のことに目を向けていないのではないかとということ。

行政への意識が低く、全てやってくれだろうと依存しているのではないかと。「犬がうるさいんだよ、行政どうにかして」と全て行政に任せてしまっている。地域の活動に参加しないので、全てが受身。公民館や市役所で講座をやっているけど、講座に対しての興味が全くない。個人的に自分が生活できればよいということ。

住民の役割にあるホームステイ法とは山口市内の山の方の地域に住んでいる人は海の方へホームステイして、海の方に住んでいる人は山の方へホームステイする。

行政は市民に助成金を出して欲しい。行政が補助すればイベントや講座ができると思う。私たちがイベントや講座に口コミで誘うことはできるが、行政も市報やテレビをつかってPRして欲しい。集まってくれる市民の意識の改革のために必要と思う。

自治会は他地区との交流。お隣の自治会と自治会同士の宣伝をし、他の班の発表でもあった安全・安心のマップづくりが出てきたが、私たちも地域の特色を生かしたマップを作る。例えば、小さな遺跡等地元に代々から残っているものを知らない人に知らせるのもひとつの広報ではないかなと思う。それをやるには調整役、コーディネーターが必要。コーディネーター、引っ張ってってくれる人が、一人でも二人でもいれば上手くやっていけるのではないかと考えて議論した。

< 渡辺副会長 >

質問はよいでしょうか。実現しないと困るのでしっかりたたいて欲しい。では私から。助成金はイベント、講座、何でも出すのでしょうか。

< 3班 C委員 >

この中に助成金申請される方もいると思うが、期限付きや、内容が市民の意識改革につながるかというところが目的に合っているか、目的意識が間違っていないかということ審査して出す。そこは今の助成金と同じ。

< H委員 >

市民の意識改革ということだが、市民の主体性を出していくことが大事だと思う。寄付基金も考えていくべき。中間的な支援団体を作り、寄付基金から市民の主体性づくりも支援していく。こういった体制作りはどうかと考えた。やはり自分たちのことは自分たちでやるという意識が大事だと思う。

< 3班 C委員 >

寄付基金という話が出たが、そういういい言葉があったと思った。それにすればよかった。1班の話が出たが、山口には企業がないが、企業を誘致し、企業が栄えれば税金が増えてまちが潤う。寄付基金に企業が出すということに結びつくと思う。

もちろん個人の寄付もあるが、お役所だけのまちだったら破綻するのも秒読み段階な

ので、企業がまちと一緒に潤っていくことができないかと考えている。

助成金だが、内容がきちっとしていないと絶対に助成金はおりない。助成金申請することで、やる側の意識向上にもなる。現時点の助成金でもそういう風に作っている。市民が書類に自分の意思を落とすという大切な行為だと思う。

< 社会長 >

まだ質問はありますか。

< 3班 J委員 >

補足だが、助成金は、例えば地域通貨等を考えるのもひとつのアイデア。市民の協働づくりファンドをみんなに募ってやっていく。例えば旧阿知須町で健康文化センターを作るときに、五万円ずつファンドとして町民が出した。いろんなやり方があると思うが、ある程度の仕組みを行政が考えて、架け橋になってもらえればよいと思う。

< 4班 K委員 > [4班アイデアシートへ](#)

我々は最初に市長さんの講話と一緒に聞いた。いろんな課題があるが、これは自治会が充実してれば8割は解決できると思った。市長さんの心配事を市民として何とか解決してあげなければならない、お手伝いしなければならないと個人的に強く思った。

発表で自治会が大事という意見が若い人から出たのを嬉しく思っている。私も自治会の役員をかなり長くやっているなのでその点から話をしたい。

私たちが話したのは熟年パワーの活用。いま力が余っていて、お金もあって、経験もやる気もある、こういう人がまちにごろごろしている。ほとんどがパチンコ屋に行っている。これほどもったいないことはない。

その人たちをいかにまとめて、活躍の場をみんなで探していくか、声をかけていくか。それをなんとかみんなの力で引き出すことがまちの活性化に有効だと思う。その熟年パワーをどう生かすか、どう使っていくか、どうまとめていくかこの辺が問題。

自治会と行政の関係は、行政が自治会に対して、つかず離れずのあいまいな態度を取ってきたから、自治会が無力化してきたと私は思っている。もう少し自治会の存在を市民にアピールするとともに、後方支援する必要があると。

今までは都合のいい時だけ自治会というのが結構あったと思う。苦情を十数万人が役所に言ってきたら大変なので、苦情は自治会長を通して、組織を通して行うようにルールを設けるべき。自治会の力を借りて環境を良くして欲しいということになる。それが行政の責任だと思う。自治会と行政のタイアップ、すぐにはできないだろうが、自治会がやる気のであるシステムを自治会も考えるが、行政も考えて欲しいと思う。

先程のハザードマップも素晴らしいと思うが、私は福祉で会合を持っている。市民会議で話したことをみんなに伝え、意見をもらう。独りよがりにならないように、多くの人のお話を聞くようにしている。福祉を基にした会合はどこでやっても上手くいくと思う。買い物の手伝いをするとか、声をかけるとか、福祉を基にして選択肢を広げていく。

熟年パワー活用ということで、実際に家に行って勧誘している。協働のもとでは自治会にある。地方自治が盛んに言われるが、自治会は地方自治の先端だと思う。手や足の指、これが自治会だと思う。つながっていかないと、手や足の指だけが動いてもしようがない。発表に私の意見が多く入ってしまったが、以上で発表を終わる。

< 辻会長 >

意見はないでしょうか。

< 渡辺副会長 >

進め方として福祉の視点でまちづくりを進めるということと、自治会と行政のタイアップを進めるということが出てきたが、そのあたりで何かないでしょうか。

< 辻会長 >

では5班。発表をお願いします。

< 5班 L委員 > [5班アイデアシートへ](#)

5班です。いろいろテーマがでたが、結局一番難しいテーマである「人材育成」になった。難しくて前に進みそうもないものを選んでしまった。みなさんも人材育成の必要性を承知していると思うが、これがすべてのことの土台になると考える。

第一の目的としては自治会組織活性化も含めたコミュニティの確立をしっかりとやって行くこと。人材育成のためのいろいろな行事に参加、参画してもらい、それが協働の推進につながっていくと思う。

そしてまちづくりや人材育成に対する市民意識の向上も目的の中に入れた。人材育成は難しい。今でも順調にいけない、そういう面もあると思う。

地域リーダー養成講座等の内容のものを行政に取り持って欲しい。養成講座の中に熟年パワーもありますが、若い人のパワーもたくさんあるので年代別に行くことを考えて欲しい。そして女性リーダー養成。人口の半分は女性だから女性のパワーを活かしながら、人材育成を通して、市民主体で愛すべき山口市を作り上げていきたいと思う。

現在は多様な価値観が存在し、意見をまとめるのも大変である。行政には酷な言い方かもしれないが、行政で公益的なサービスを担うことは限界に来ていると見受けられる。様々な課題を主体的に捉え生活を豊かにしようとする市民の活動が増えてきている。その基になるのが人材育成であり、これを疎かにするとよいまちづくりはできないと思う。

県議会が若い人を対象に行ったアンケートで山口が大好きという人は80%いるが、住みたいと思う人は38%しかいなかった。何か問題があるはずなのでこのあたりは良く考えなければならない。

市民が主体的に講座に参加し、勉強して地域に持ち帰り、活動の輪を広げる。まず隣近所の小さなコミュニティを確立する。それを全市に広げていく。順序だてて、取り組みやすいのは小さなコミュニティだと思う。そのために人材育成をやっていく。

行政は資金面の支援、場の提供、講師への対応、情報の発信等をしてほしい。
市民団体は養成講座のプログラムづくりとその実施、自治会については参加者の対応、これをぜひやって欲しい。他の班の発表でもあったが自治会組織の活動が低調なのではないか。やる気のある自治会とない自治会の地域の温度差、リーダーの温度差があると思う。公平にできるように近づけることが重要である。では発表を終わる。

< 社会長 >

5班の発表は人材育成というテーマだが、何か意見はありますか。

< M委員 >

地域で温度差があるという話があったが、私も徳地の奥の方に住んでいて、人材育成は一番の問題だと思っている。

私はボランティア団体の副会長をやっているが、人材不足で困っている。温度差というのはやはり若い人が参加できない。意識の問題もあるが、働いていて時間が取れない。

私は40年も故郷を離れていたもので、外からの目線で故郷を見る目を持った。地域の人がそこに気がついていないのではないかと、私はそういう風を感じている。

そういうことを伝えていきたいが、若い人、後継者がいないという問題がある。年齢的な構成もあるが、私たちの地域は50%以上が65歳以上の方で、そういう地域で人材育成といっても中々困難である。先ほどの発表であった熟年パワー、さらに老年パワーこれが必要になっていくと思う。私の感じたことを述べさせてもらった。

< 5班 H委員 >

補足だが、これからは人材育成と同時に人材発掘をやっていかないといけない。

< I委員 >

発表の中で行政のところで、講師への対応というのがあったが、行政に講師を頼んでも出てくるのは学識経験者。そうではなく住民が講師を見つけてくる。一般の方で何か長けている方、素晴らしいものを持っている方がおられる。その方を講師に迎えて、講義をしてもらうのがよいと思う。行政に言っても、とにかく学識経験者ということになる。

< 5班 L委員 >

一番言いたいのは、今は実務を十分に把握した人が必要、そういうことが言いたい。

< N委員 >

小郡は人材登録をしていて、一回も活動しないうちに合併になった。なんの為の人材登録なんだって話。だからきちんとしていかないと。

< E委員 >

さっき発表した4班だが、熟年パワーの活用を阿知須でやっていて、そこにすばらしい人材が生まれつつあるというのがあった。人材が発掘されてないのが問題。

私は実務をある程度経験して、退職した人はみんなスペシャリストだと思う。

【4 次回開催】

< 社会長 >

時間もなくなってきた。この後の予定ではアイデアシートをみんなで評価する。今日は九時までの予定だったが過ぎてしまった。

今日の発表を聞いてよくまとまっている班もあったが、アイデアシートを使ってのグループワークが初めてだったので、面食らったのかもしれないと思った。

各班、住民自治やまちづくりをベースにしているが、いいつくり方というのは、テーマをどんどん出していくこと。人材育成は、学校教育から何から全部人材育成なのだから、まちづくりの中で何が一番人材育成で足りないのかをテーマにするとまとまりが出てもっと良くなると思う。

テーマを設定して、課題の原因を考え、主体の役割を考えるということにみなさんまだまだ慣れていない。私が今日作ってきたのはまちづくりの中の市民の連帯感、新しい山口市のまちづくり、だから全くないものを提案することにした。

5つの班の発表を聞いて大変面白いと思った。テーマをどこまで具体化するかに応じて決まってくると思う。熟年パワーを使ったまちづくりとしたほうがもっといい。熟年パワーのこういったところを使うのか。例えばいっぱいある時間だとか。

事業名ももっとキャッチフレーズ的にもう少しかっこいいものだったら人が集まる。主体というのが一体何なのか、定番では市民社会の中に存在する市民、行政、自治会、企業。その中のどれが必要なのかということを見定めていくともっと面白いものができると思う。時間がないのでこのくらいにしておきます。

次回の会議に向けて宿題がある。手元にA4の【資料が条例の柱立てを検討するうえで(参考)】と【(仮称)山口市まちづくり基本条例の柱立てたたき台(記入例)】、A3の資料が【(仮称)山口市まちづくり基本条例の柱立て】が配られている。宿題は【(仮称)山口市まちづくり基本条例の柱立て】の前文、目的等、自分だったらこんなのを入れたいという、自分の思いを込めたものを書いてきて欲しい。

次回開催日だが、11月は会議を2回ぐらいペースで行いたいと思っていたが、なかなか時間が取れない。11月17日の土曜日の午後1時から午後5時までこの会場で行いたい。長時間にはなるが、内容については事前にプロセス会議を開いた上で、みなさんにはご案内を出したいと考えている。よろしくお願いします。事務局から何かありますか。

< 事務局 >

- ・アイデアカードの提出
- ・事務連絡

	<p>< 辻会長 > 次回は土曜日で長時間になるが、また宿題も出ているがよろしく願います。今日はこれで終わります。</p> <p>会議の経過を記載し、その内容に相違のないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>署名委員 藏 本 信 江</p> <p>署名委員 久 保 田 美 代</p>
<p>会議資料</p>	<p>1 レジユメ 2 協働のまちづくり市民会議第2回(資料1) 3 第3回市民会議グループ編成表(資料2) 4 5 6 7 8</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>自治振興部協働推進課協働推進担当 TEL 083-934-2965</p>